

市政懇談会開催経過 4

皆さんから多くのご意見をいただきました

市では、多くの市民の皆さんから市政に対するご意見・ご要望をいただくため、7月から11月にかけて毎月1回(全5回)、市内の各種団体の皆さんを対象にした市政懇談会(主要施策懇談会)を開催しました。今回は、「教育・文化部門」の内容の一部をご紹介します。詳しくは、笠間市ホームページをご覧ください。

教育・文化部門(10月26日開催)

●外部講師を招いた授業について

学校教育の中で、外部講師を招いての授業はどのくらいか。

A 小・中学校に外部講師を招いての授業は、平成18年度は21校で570時間(授業時間)実施しており、1校



笠間支所で行われた第4回市政懇談会

当たりの平均は27時間となります。内訳では、郷土史学習を19時間、「戦争体験を聴く」を3時間、郷土芸能学習を22時間、作る・栽培・福祉などの体験学習を162時間、スポーツ・音楽の技能を25時間実施しています。また、食育学習や歯磨き指導、交通安全や租税学習なども各校で実施しています。外部講師による学習は、児童生徒にとって貴重な学習となりますので、今後も推進していきたいと考えています。

●市からの補助金について

Q 市からの補助金が少なくなってきたら、補助金の減額に歯止めをかけて、団体への安定した支援をお願いしたい。

A 昨年11月に設置された民間有識者からなる補助金等検討委員会で、笠間市の補助金のあり方について検討していただいています。まもなくその最終答申が出る予定になっていますので、答申の内容を最大限に考慮して決定していきたいと考えています。

●文化財をめぐるツアーについて
Q 観光協会主催で、春と秋に史跡・文化財めぐりを開催してはどうか。

A 笠間市にとって、国指定重要文化財を有する楞嚴寺・土佐寺・弥勒教会や親鸞聖人ゆかりの西念寺などを観光と結びつけていくことが望ましいと考えています。ご提案のように、春と秋に市内の文化財をめぐるツアーを企画していきたいと思しますので、笠間史談会の皆さんのご協力をお願いします。

●文化会館の設置について

Q 市民が使用でき、他の市町村や県外からも利用したいといわれるような文化会館を設置してほしい。

A 既存施設を上回る規模のホールを有する文化会館等の新設は、維持管理を含め多大な予算を要するので、慎重に検討していかねばならないと考えています。また、市民ホール等の整備は総合計画で整備検討案件とされており、現在の笠間・友部公民館の整備活用を含めた中で検討していきます。

●全国一斉学力試験の結果について

Q 先日、全国一斉学力試験の結果が出されたが、茨城県は低いほうにランクされている。笠間市内の学校の現状や今後の方針などについて教えてください。

A 茨城県は低いとのことですが、点数的なわずかな違いであり、許容範囲ということです。テストには、知識を利用する基本的なA問題と、考え方

を使うB問題がありますが、本市の小学校では、両問題とも国や県の平均とおおむね同じになっています。中学校では、国語はA・Bとも全国平均より上、数学は同じ状況です。ただ、傾向について申し上げますと、基礎的な技能はあるが、それを応用する力が足りないという課題があります。このことは全国的にも指摘されています。今後、子どもたちの結果と資料を分析しながら具体的な教育計画を見直し、来年に生かしていきたいと思っています。

●中学校の部活動のあり方について

Q 少子化の中、部活動の中心となる先生が少なくなってきたり、先生が苦勞も多し、専門的な技術指導も十分にできない状況にある。そこで、外部コーチを広く募集してはどうか。

A 部活動は教育の大きな分野を占めていますが、体力面だけでなく、先輩・後輩関係や人間関係づくりができる場、つまり「勝つため」だけではなく、「教育」として重要視されています。ご指摘のように、教師の技術的なサポートができる人材が必要になっていくと思いますが、「勝つため」という競技志向の方も多いため、人材バンク的なものではなく、地域に密着して人問づくりの指導者を確保していくことが、子どもたちの健全育成にも有効だと思います。

◆広報かさま1月号には、自治協働部門を掲載します。

問合せ▼秘書課(内線2224)